知仕候。今度御參勤の時分御旅裝華奢至極、とかく驚目御事の由に候。當地藩邸御作事も結構を盡し候由、奥方など奢愈々の旨に候。當端午のぼり、御書院前に建候て貴賤男女見物を被仰付、表門開き入れ申候。大勢群集仕候由、江戸中の沙汰に候。温知政要も板行仕由に候。其に補翼とやらん申注釋を、何者やらん著候由に候。但頃日は町中御拂ことの外相滯申故、町人共一統にほめ申候處俄にあしく唱申候。なに程御國富強に候ても、只今迄の趣にては續き申間敷候。

老夫著し申かな書物、今少しに仕候。上中下三卷程に可仕と存候。是はかな書に候へ共、老夫學問の始終、又は工夫のあらまし盡し申候。其上誰見候ても合点仕様にと、第一俗人をさとし可申爲にかな書にいたし、至極引さげて説申候。餘り長くは不入ものと存候故、今少し仕候て脱稿可仕候。たゞ調申にこまり申候。他人に頼候ても、下書をわけ見え候様に、私自身に調不申候ては成不申候。先日西丸の衆へ物語候へば、出來候はゞ上へも上げ可然由申候。御側衆へも物語仕置候由被申候。左候へば早く出來候様に仕

度候。此書は世に出候はゞ、世人も好て見可申と存候。中にはなしなど交へ候て、をかしく仕立たる物に御座候。道德の沙汰、世上の言葉にてか様に手近く申たる書は、終に有之間敷候。

賤息縁者大田林庵事下谷長者可有宅。父は大田ト元と申候。大猷院様御代被召出、祖父は千代姫様へ御附被成候。數代の醫に候。林庵近き比父母共に無之、十七八歳に成申候。いまだ山普請組に入り候て、御番も致さず候。大田道壽はまた別家に候。前月廿三日結納も遣候。九月中に婚禮相調へ申度候。私に加之

尾州公當三月御參勤以來、都鄙の巷説種々有之内、實正に相聞候趣左に記之。

御繼續は春の儀に候所、名護屋御城下に遊女町・狂言・芝居被仰付、甚敷奢侈、士中も無權遊興仕候。御國中御往來、末々迄も見知候様にとの儀にて牛に被駕候。御參勤惣人數一萬人、騎馬供九十員、裝束徒士以上脚半迄も金入緞子等を用候。御自身には唐冠の形なる笠に、虎皮を以飾之、猩々緋の羽織、馬面を用候。牛二頭御行列の内に牽

之。御着の日上使松平左近將監殿御出候處、御舊例に違御玄關へ御迎に御出無之、御家老竹腰志摩守罷出誘引にて御書院へ御通候所、別人を以御挨拶には、道中より痛所有之、難被成御出候。色々被加保養可有御逢候間、御待遠可有之旨にて一時計有之、又被仰出候は、御痛不宜御書院迄は御出難被成候。乍略儀居間書院へ通可被成候。其上にて上意御承知、御請も可被仰上候旨にて別席へ御通り、御饗應も御出し、御盃事も相濟候節に被仰入候は、兼て各方同役中へ可被仰入趣有之、於殿中列座の時は却て如何にも候條、只今に被仰聞候。同列の方へ可被仰談候。近年以來、次第々々に權現様以來の御格式、相違仕事多有之候。第一御譜代大名の事は御家禮筋に候へば、其程々のあしらひにて宜敷候。諸侯の儀は、郡大名迄も御客の様成ものに候。然所却て次第に諸侯への御待遇疎略に罷成候。畢竟御先代の舊記を被考、只今の様子引合相考被申候はゞ、合点可參候旨被仰候よし。扱追て登城の日、前々御對顔の席よりは、三疊敷計も上に御着座被成候。御老中見兼被申候て、着座の所違申旨再三

被申候所、只御目遣被成候迄にて其儘被成御座候。其内御盃事に罷成候。前に返盃の時は、老中方御挨拶被申上候て、其上に被差上候趣に候所、此度御老中方不被罷出前に、御手早く御三方へ御盃御載被差上候。か様の事共多有之候。端午御のぼり御建被成候節、市谷御邸御門七つ有之を不殘明通し、貴賤男女無構御通見物被仰付、御旗本衆へは御料理出、御白衣にて逢被成候。結構過置可申様無之候。權現様より拜領の御軍用の御旗も御建被成、紅縞紗ののぼり斗も六十本建候。頗驚耳目候事のみ有之由。

一、尾張宗春候の儀青地蕃宣來狀

家來狀 尾張様の事、今日の御客本多彌兵衛殿・川副新右衛門殿・齋藤長八郎殿等御物語の趣。端午に御のぼり御立候刻、權現様より御拜領の御旗四本御建被成、江戸中の者共へ爲御見被成候。其段達上聞候由。先日御直に尾張様へ御様子御尋被成、如何の儀にて御立被成候や。何とぞ御出馬も有之砌は格別、其儀無之候ては不因貴賤爲御見被成候事、上には御合点不參候。思召御聞被成度旨上意に候所、尾張様一圓御請